

授業科目名	助産経営管理学 <i>Midwifery Administration and Management</i>		担当教員	永松 美雪	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	妊産婦や新生児により安全で満足できるケアを提供するための業務を遂行するための管理（関連法律を含む）と助産機能評価について探究する。また、経営、医療事故、災害などのリスクマネジメントについて、現在の周産期医療現場が抱える課題と対応について考察する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理に関する法規と助産師の義務・責任を説明できる 2. 周産期管理システムとリスクマネジメントについて説明ができる 3. 助産業務が行われる場による助産管理の特徴と他職種、他機関、他部門との連携と調整について説明できる 4. 無床助産所と有床助産所における助産管理と地域連携について説明できる 5. 開業助産院の計画（案）を作成し、助産と経営について考察し発表することができる 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 管理の基本概念とプロセス、助産管理の概念（永松） 2回 助産と医療経済（永松） 3回 助産管理に関する法規（永松） 4回 助産師の法的責任と義務（永松） 5回 周産期管理システム（永松） 6回 周産期の医療事故とリスクマネジメント（永松） 7回 病産院における助産業務管理（永松） 8回 産科棟の管理（永松） 9回 院内助産・院内助産院の管理（永松） 10回 外来の助産管理（永松） 11回 助産所の管理に関する法規、助産所開設に必要な事項（永松） 12回 無床助産所における助産管理と地域連携（にじいろ助産院 益永孝子） 13回 有床助産所における助産管理と地域連携（菜の花助産院 稲富博美） 14回 有床助産所における運営と経営（菜の花助産院 稲富博美） 15回 開業助産計画（案）について発表（永松） 				
学習方法	助産管理は個々の助産師にも求められることから、助産業務に必要な法的根拠については、予習・復習をしておくこと。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	<p>我部山キヨ子、毛利多恵子：助産管理（第5版）．東京，医学書院，2016．</p> <p>福井トシ子編：助産師業務要覧 基礎編（第2版）．東京，日本看護協会出版会，2012．</p> <p>福井トシ子編：助産師業務要覧 実践編（第2版）．東京，日本看護協会出版会，2012．</p> <p>「助産所開業マニュアル」編集ワーキンググループ 編：助産所開業マニュアル 2013年度改訂版．東京，日本助産師会，2013</p>				
参考文献	<p>日本助産師会助産録改訂特別委員会 編：助産記 記録と助産師の責務．東京，日本助産師会，2015．</p> <p>日本助産師会：助産業務ガイドライン 2014年改訂版（PDF）．東京，社団法人日本助産師会出版会，2014．</p> <p>成田伸編：周産期における医療の質と安全．東京，日本看護協会出版会，2013．</p> <p>日本産婦人科学会：産婦人科診療ガイドライン—産科編．東京，日本産科婦人科学会事務局，2014．</p> <p>日本助産師会災害対策委員会 編：助産師が行う災害時支援マニュアル（PDF）．東京，社団法人日本助産師会，2012．</p> <p>WHO：Care in normal birth：a practical guide．1996，戸田律子 訳：WH059 か条お産の実践ケアガイド．農文協出版，1997．</p>				
評価方法	授業参加度（20%）、レポート（40%）、試験（40%）				